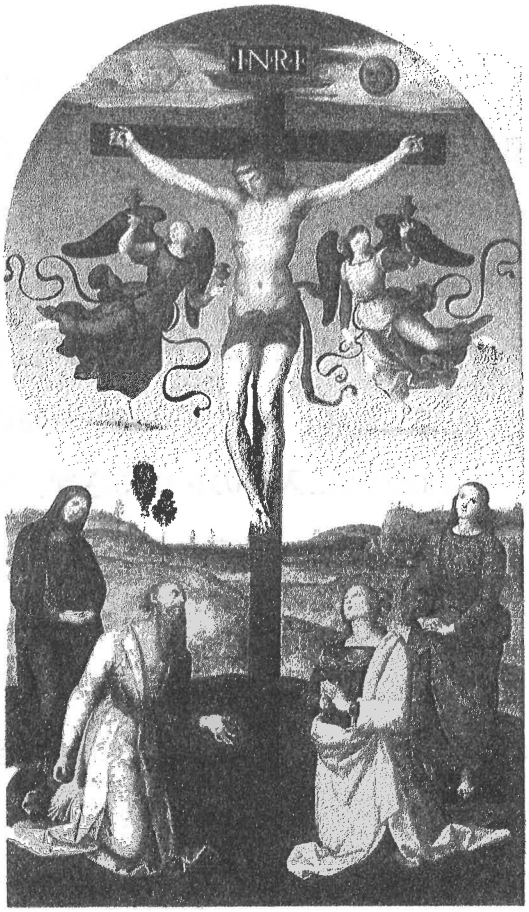
2009年（平成21）9月

カルメル

霊性センターニュース



246号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

――バルバロ訳――

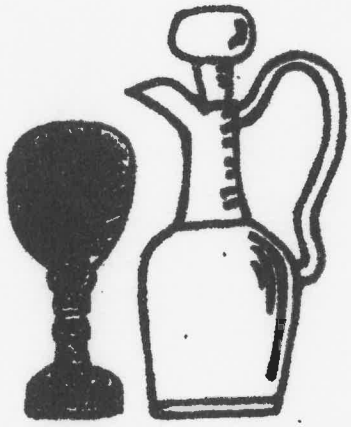
第一巻

第１３章　誘惑に抵抗する

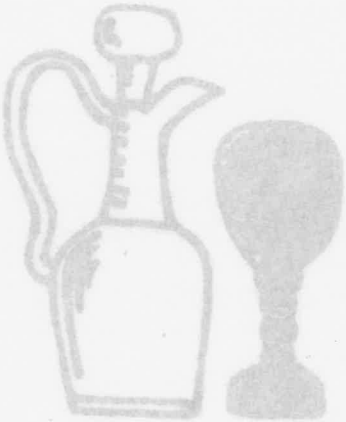
５　最初の抵抗が大切

すべての誘惑のもとは、私たちの心が移り気なことと、神に対する信頼の不足にある。舵のない舟が、あちらこちらに波にもてあそばれるように、心が弱く、決心を変えやすい人は、いろいろな誘惑に悩まされる。「火は鉄を試す」（シラ 31・26）、そして誘惑は義人を試すのである。私たちは、自分の力量をよく知らないものであるが、誘惑は私たちの真価を知らせてくれる。だから、誘惑が始まる時は、特に警戒しなければならない。敵が心の門に入るのをゆるさず、敵が門をたたいたら、すぐ出て行って門の外に押し出すようにすれば、容易に敵に勝つことができる。ある詩人もこういっている。「病気には初めに抵抗しなさい。ぐずぐずしていて病気の根がはびこってしまえば、薬ではもう手遅れである」と。禁じられているある事柄が頭に浮かんでから、次に強く想像力がはたらき、それから感覚が快楽を感じ、よこしまな情欲となり、ついに承諾に終わるのである。初めに抵抗しないと、悪い敵は次第にすべてを占領してしまう。抵抗を怠れば怠るほど、その人は日々弱くなり、敵はそれにつれて強くなるのである。

心　の　泉



小の泉



聖霊の友

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父　ocd　　－9－

あなたのまなざしを　忠実に

神にとどめていなさい

なんらかのことがらが

あなたを

神から遠ざけているように

思えるときにでさえも

――幼きイエスのマリー・エウジェンヌ　ocd

ジャンヌ・ダルクに扮する
テレーズのまなざし

年々猛暑がエスカレートしてくるようです。このページをくる頃は、まだまだ暑さにあえいでいるかもしれません。それとも、秋のさわやかさを感じさせてくれるそよ風が通り過ぎてくれるでしょうか。

むさぐるしい暑さのうちにも、心をピリッとさせる空気の動きのうちにも、どんな状況にあっても、心のまなざしだけは神へと向けていたいものです。「失われた時間、神を愛することなく過ごした瞬時のために大きな心の痛みを持つ」との十字架の聖ヨハネの言葉を思い起こします。働き蜂、遊び蜂になりすましてしまうわたしたちにとってこの「失われた時間」について考えてみるとよいでしょう。

あなたのまなざしを忠実に神にとどめているように。なんらかのことがらがあなたを神から遠ざけているように思えるときにでさえも。

どんな状況にあっても、心のまなざしを神へと向けるコンスタントな神との関わりはわたしたちの信仰生活に欠かせないはずです。常に心のまなざしを神にとどめること・・・祈りにおいて培うこの信仰のまなざしを日々の生活の中でさらに深めていくことができるなら、していること、行動そのものが何であれ、「失われた時間」とはならないでしょう。

ところが以外にまなざしを神からそらせる機会がわたしたちの周りに転がっているようです。と同時に心がけるならば意外と神へとまなざしを向ける機会ともなることは勇気づけられます。

伊従　信子
ノートルダム・ド・ヴィ

『必要なことは、ただ一つだけ』(49)

ルドルフ・デ・スーザ　OCD（カルメル会）

私たちの心が汚れていれば、接触も汚れたものとなります。同様に、私たちの心が聖であれば、接触も聖なるものとなります。私たちの心がみだらであれば、接触もみだらなものとなります。私たちが神と共に生きているならば、いかなる接触も神的で意味あるものとなるのです。私たちは人生においてたくさんのものに触れますが、その体験を内面化しません。内面化し、接触を意識するならば、私たちは心の調和へと導かれます。それは、祈りのよい準備となります。体験は、いつも心と関連しています。必要があれば、接触の知覚はより鋭くなり、それに気づいているならば、体験の最高のレヴェルに達します。例えば、一つの花に触れる時、それを十全に意識しているならば、神の現存へと導かれ得るのです。そうでないならば、花に触れることは、石に触れるのと何の変わりもないことになるのです。

私たちが、人間的なものであれ神的なものであれ、接触について語る時、詩の恵みも強調することになります。詩人（あるいは画家や芸術家）は、彼が真正の詩人であるかぎり、どんなに感覚や想像の世界の中に閉じ込められていようと、常に超越的な神秘と「接触」しています。彼は自然や戦争や人間の愛や情熱について書くかもしれません。彼には「聖なる」特性などないのに、風景や肖像を描くかもしれません。けれどもその作品には聖なる神秘が現存し、それゆえその作品を詩や芸術にするのです。彼が現実に触れる時、彼は神聖なものに触れているのです。

接触の感覚を霊化すること

私たちの手は、私たちの内におられる神の現存ゆえに聖なるものです。聖人が人々に触れた時、彼らは違いを体験しました。聖人たちの接触は、彼らの全人格、霊の延長であり、他者に対する彼らの聖性なのです。イエスが村や町や牧場へ行った時、人々は、病人をイエスの服の房にでも触れさせようとして、道端に横たえました。私たちの生活において、接触や抱擁やあたたかな握手や背中をたたくことやキスなどは、温かさや配慮や平和や愛のメッセージを、他者に送ることなのです。抱擁は、いつも抱擁する人にとっても、される人にとっても、かけがえのないものだということです。

常に心をあたためる単純な抱擁の中に、何かがあります。
それは私たちの帰宅を喜んで迎えさせ、また私たちの別れを容易にするのです。
抱擁は喜びと、私たちが通り抜けねばならない悲しみの時を分かち合う手段です。あるいは友達が、あなたがあなたであるゆえに好きであると言うための手段なのです。
抱擁は、私たちが本当に心配している人、すなわちおばあちゃんからあなたの隣人に至るまで、あるいはかわいらしいぬいぐるみの熊とって大切なものです。
抱擁はすばらしいものです。それはまさに、私たちが感じていても、言うべき言葉が見つけられない愛を示す完全な手段なのです。
ちょっとした抱擁がどれほどすべてのひとをいい気持ちにさせるかということは、おかしいぐらいです。あらゆる場所と言語において、それはいつも理解されるのです。
それに抱擁は、新しい装備や特別なバッテリーや部品を必要としません。
ただあなたの両腕を開き、あなたの心を開くだけのことです。

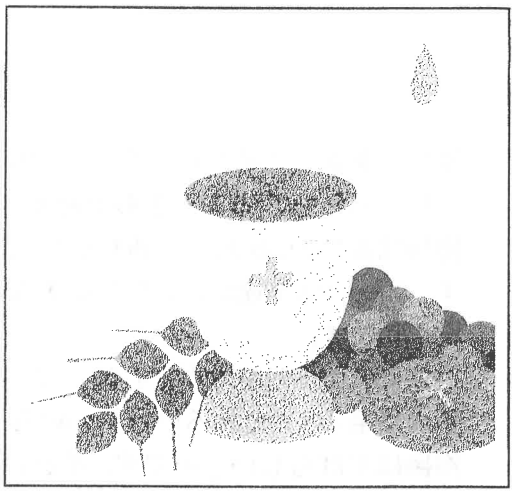
神は私たちをご自分の手で創りました。それゆえ聖書は、私たちが神の像にかたどって創造されたと告げています（創 1:27)。神が私たちをご自分の手で創ったのであれば、私たちの手も、毎日の創造において神を模倣すべきです。子供を世話しあやしている時の母親の手は、何と聖なるものであるかを観察してください。子供は、母親の接触がはっきりしなかったり、接触がないと、とても不安になります。知識や温かさや光を伝える教師の手を見てください。医師や看護師が世話をし治療している時の彼らの手を見てください。

私たちが創造と接触している時はいつでも、それはいつも私たちの手と共に始まっています。私たちが花や木や被造物の何かに触れようと手をのばす時、私たちはその接触を通して、いろいろな形で常に神に接触しているのです。私たちは神の温かさや心遣いや関心を、いつも他者に伝えているのです。

すべての鈍感な接触は、機械的です。こうして、きわめてしばしば、私たちは機械的に行動するのに慣れてしまいます。接触はまた、私たちが立ったり、歩いたり、かがんだり、ひざまずいたり、笑ったり、頭を振ったり、手を動かしたりすることに気づくことも意味しています。その気づきは、その働きや影響において、接触をより鋭く研ぎ澄まされたものとします。私たちが手を訓練し、接触するどんな被造物に対しても、神を賛美することができるならば、それは確かに私たちの祈りを助けてくれるでしょう。

（九里　彰訳）

ヘンリ・ナーウェンの旅路の糧（124）



黙想

イエスが「天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない」（ルカ 21：33）と言う時、彼は永遠の命への直接的な道を、私たちに示しているのです。イエスの言葉は、私たちの心や精神を変容する力を持っていて、私たちを神の国へと導いてくれるのです。イエスは言います。「わたしがあなた方に話した言葉は霊であり、命である」（ヨハ 6：63）。

黙想を通して、私たちはイエスの言葉が頭から心へ降りて行くようにし、そこに聖霊の住む場所を創るのです。私たちが何をしようと、どこへ行こうと、イエスの言葉のそばにいるようにしましょう。それらは、永遠の命の言葉なのです。

(0921)

イエスの言葉のそばにとどまり続けること

イエスの言葉は、終わりの時の混乱のただ中でも私たちの背筋をぴんとさせ、確固とした態度を保たせてくれます。それらは、私たちを支え、励まし、私たちを取り囲むすべてのものが死を告げる時でさえも、命を与えてくれるのです。イエスの言葉は、永遠の命のための食べ物だからです。それらは、私たちがまだ死ぬべき肉体をまとっている時にも、私たちを永遠の命へと導いてくれるのです。

イエスの言葉を思いめぐらしながら、何度も「かみしめながら」、魂の食べ物として食べながら、そのそばにとどまり続ける時、私たちは、神のとこしえの愛の中により深く入っていくことでしょう。

(0920)

九里　彰訳

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　みことばのひびき　＊＊＊

年間第二十三主日Ｂ　マルコ 7, 31-37

「『エッファタ』と言われた。これは、『開け』と言う意味である」(マルコ 7, 34)。

皆様もご存知のように、福音書はギリシャ語で書かれているのですが、アラマイ語の発音「エッファタ」は、イエスのお口から出たままの力強さ、衝撃と新鮮さをわたしたちの耳にまでも響かせています。今日の福音は、「耳が聞こえず舌の回らない人」の癒しの奇跡なのですが、その奇跡を実行なさるイエスの取られたその方法に注目すべきでしょう。と言っても、「指をその両耳に差し入れ、唾をつけてその舌に触れられた」にではなく、「天を仰いで深く息をつき、その人に向かって、『エッファタ』と言われた」にです。このお言葉の力強さにひってきできるのは、創世記の冒頭の「神は言われた。『光あれ』」(創世記 1, 3) だけではないかと思います。神の愛から出た御言葉による天地の始まりであり、人間の創造です。

イエスがなさった癒しに居合わせた人々も、「すっかり驚いて言った。『この方のなさったことはすべて、すばらしい』」。創世記では、人間の創造をされた後、「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった」(創世記 1, 31) となっています。福音の主題も、癒しと言うよりは、新しい人の創造なのです。今日、御言葉を聴くわたしたちの中にも、この癒し、創造の力が働いています。以下は、ある本の一部の翻訳です。

「主イエス、あなたは、あの不幸な耳が聞こえず下の回らない人を前にして、ため息をつき、同情と共感を示されました。そして、あなたの同情と共感は、癒しの奇跡に変わったのです。わたしは、あなたの赦しを乞い求めます。わたしの心の頑なさが、しばしば、多くの兄弟たちを前にして、共に感じ、共に分かち合い、共に感動することを妨げているのです。今日、わたしのために、あなたの「エッフェタ」を繰り返してください、隣人への配慮に基づく美しい言葉を見つけ語ることができますように。主よ、あなたの愛の不思議な業を前にして、あまりにも鈍感で麻痺したわたしを赦してください。あなたの賛美を歌い、あなたが継続し続けておられる不思議な業すべての語る驚きと喜びの賜物を、わたしに与えてください。あなたは、洗礼の日に、わたしの耳を開き、もつれた舌を解いてくださいました。お願いします、その御業を続けてください。わたしが、いつも、あなた御言葉を聞き、果たすことができるために」。　　ルカ　渡辺幹夫

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　みことばのひびき　＊＊＊

年間　第２４主日（Ｂ）

「あなたたちはわたしを何者だと言うのか？」

（マルコ８：２７～３５）

弟子たちは今、ほぼ３年間もイエスと一緒にいました。イエスは地上での使命を全うし、弟子たちに同じ使命をゆだねる時が急速に近づいていました。これに対して弟子たちはどれほど準備ができているでしょうか？　弟子たちはイエスを理解し彼の使命を理解していたでしょうか？　イエスは二つの質問をします：「人々はわたしを何者だと言っているか」と「あなたたちはわたしを何者だと言うのか？」一般の人達はイエスについて同じような考えをもっています。イエスは非常に偉大な人－－偉大な預言者のひとりである、ということで皆同じ意見です。しかしそれだけのことです。イエスは弟子たちが自分のことをもっとよく知って欲しいと願っています。そこで第二の質問をします。

ペテロが代表者となり、１２人の小さなグループの人たちは一般の人たちが考える普通の答えをはるかに超え、「あなたはキリストです」と言います。すぐにイエスは自分が誰であるかということについて内密にするようにと命じます。イエスは誤解されるのを避けたいと望まれました。神の油注がれたしもべ、長い間待ちのぞんでいたメシアとは栄光の成功物語の中心的人物と全ての人は考えていました。イエスは彼の弟子たちも同じように、この世的な成功の新しい高みへ民を導く国家的な英雄と考えるメシア観を持っていることを知っていました。イエスはそうではないことを弟子たちに悟らせなければなりませんでした。普通の基準から見れば、未来は勝利ではなくひどい敗北でした。これは弟子たちとって理解し受け入れがたいことでした。ペテロは再び皆に代わって、イエスをわきに連れて行きいさめました。マタイはペテロの言葉をこのように記しています：「主よ、とんでもないことです。そんなことはありません」（マタイ１６：２２）。

ペテロへのイエスの応えは厳しいものでした。中心グループのリーダーに選んでいたペテロをサタンと呼び、彼に言われました：「あなたの思いは、神のものではなく、人間のものである」。この鋭い叱責は、ペテロの言葉がイエスにとって真の誘惑だったことを示しています。初めの成功への希望を捨て、拒絶や苦しみそして死を受け入れること－－これは全てイエスに苦悶の闘いを伴わせました。ペテロへのイエスの厳しい言葉はこの内面の葛藤がどれほど激しいものであったかを明らかにしています。

このようにイエスが歩んでいる道は、自分に従う者となりたいと願っているどの人の人生にも一致していることをイエスは明確にしました。本日の福音でのイエスの最後の言葉は私たち皆、イエスの信奉者に向けられています：「わたしの後に従いたい者は、おのれを捨て、自分の十字架をになって、わたしに従いなさい。自分の命を救おうと望む者はそれを失い、わたしのため、また福音のために、命を失う者は、それを救う」。もしあなたが喜んで自分を捨て十字架をになおうとしないならば、イエスの真の信奉者になろうとを考えてはなりません、という強烈なメッセージです。

（Sr. Paulina）

年間第二十五主日Ｂ　マルコ 9, 30-37

「人の子は、人々の手に引き渡され、殺される。殺されて三日の後に復活する」（マルコ 9, 31）。

イエスが、三度も受難と死の告知なさったのは、差し迫った未来の情報伝達ではなく、弟子たちの訓育、形成、養成のためです。イエスが復活についても語ったことが意味することは、勝利するのは命である、たとえ、苦しみと死の暗く狭いトンネルをくぐらなければならないとしても、人間の近視眼的視野では、死と悪が勝ったと見えるときにも、最終の勝利は、神の御手の中にあるとのイエスご自身の確信に弟子たちを招くためです。律法と預言者によって語られたイスラエルの全歴史に開示され、教えられている神の支配は、確かに死を過ぎ越して神のみが開く新しい生命へのリズムで、展開されているのではありませんか。イエスは、御自分の生涯を、また、自分たちの生涯を、神の救いの展開、過ぎ越し秘儀として見るように弟子たちを教育しようとしているのです。

一方、弟子たちは、イエスのかなり謎的である言葉を、律法と預言者を参照して明瞭にし、真意をつかもうとはしません。「だれがいちばん偉いか」との自分たちの目先の関心に心をそらせ続けています。終わりの見えない「すれ違い」。一方に、イエスの旧約の歴史を通して示された御父のなさり方への愛着があり、他方には、あまりにも人間的な自己中心的発想に固執して、御父の道に飛躍できない弟子たちの無理解があります。物分りの悪い幼子のようなものは、実に、弟子たち自身です。

イエスは、弟子たちを、幼子を育てる母親の愛と忍耐で耐え続け、最後には、彼らのために死さえも受け入れます。ユダヤ社会では、子供は、律法も知らず、神のなさり方も分からず、御旨を理解できないものと見なされていました。その子供を弟子たちの真ん中に立たせる、これは、イエスの一種のユーモアかもしれません。

イエスの十字架の死と復活の後、初めて、弟子たちには、神の道が見えてきました。「わたしの名のためにこのような子供の一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである」。イエスを救い主と信じるわたしたちにも、この道が見えているのでしょうか。　　ルカ渡辺幹夫

年　間　第　２６　主　日 (B)

「もし片方の手があなたをつまずかせるなら、切り捨ててしまいなさい。」

（マルコ９：38~43）

今日の福音には人生のおもしろい説得力のある教訓が沢山あります。その中で私たちが最大の共感を覚えることは、イエスが全て人の救いに、熱烈な思いをもって関わっていてくださることです。この教えは、洗礼によって神のいのちを与えられた人たちが一つのからだ　―キリストの神秘体―　を形成する事実に基づいています。このからだにはまだ信仰のうすい人や本当の霊的生活がどういうものかを充分に理解出来ない人もいるでしょう。心配はいりません、このからだは各自が互いに支え合い、励まし合い、持っているものを出し合って豊かなものとなり、成長していきます。逆に、もし独断的なメンバーの間違った指導や弱い人への抑圧があれば、それは神秘体全体の成長に悪く響きます。一人ひとりはこのからだ全体のよりよい歩みと完成のために働いています。

「わたしたちに逆らわない者は、わたしたちの味方なのである」（マルコ９：40）キリストの神秘体の中で各自は、神の愛を表わし伝えるものとしての権利と義務を持っています。他人に嫉妬したり、羨んだりする余地はありません。神は霊によって全ての人を強め、この霊の力強い働きは神秘体全体の善になります。洗礼の秘跡を受けたときから、私たちには神の愛と慈しみを伝えていく者にふさわしい、神の霊の賜物が与えられているのです。

「はっきり言っておく。キリストの弟子だという理由で、あなたがたに一杯の水を飲ませてくれる者は、必ずその報いをうける。」（マルコ９：41）　一杯の水、これは人の寛大さや分け合う心を表わしています。たとえそれがたった一杯の水のような僅かなものであってもそれは神を喜ばせ、神は報いてくださるのです。神秘体の中で、人は皆相手の善のために働き、相手に仕えるものとなるのです。一人ひとりの善い行い、親切なことば、寛大な赦し、快く人を迎え入れる微笑は神を喜ばせ、必ず報いていただけるものなのです。

「わたしを信ずるこれらの小さな者の一人をつまずかせるものは、大きな石臼を首に懸けられて、海に投げ込まれてしまうほうがはるかによい。」（マルコ９：４０）　イエスはここで神秘体の成長、発展のために避けなければならないことを強調なさいます。最も厳しい言葉をもって、他人の中傷や悪口を謹むよう弟子たちに警告なさいます。神秘体の一人のメンバー、一つの霊魂は神にとってはこの上ない大切な存在だからです。神秘体の中の繊細な人たちには特別なケアーや養成が必要です。一つの霊魂を救うためには、どんな犠牲をも惜しまずに働かなければなりません。あなたの生命にとってなくてはならない最も大切なものさえも、全体の救いのためには、差し出さなければならないのかもしれません。

(Sr.Paulina)

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（28）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

神の母のアロンソ修道士の召命（1）

聖テレジアが十字架のヨハネを奪ったとするならば、十字架のヨハネの場合は、神の母のアロンソ神父をカルトゥージオ会から奪ったと言えます。それは、きわめて特殊なケースで、召命に関するこのアンソロジーに加える価値があります。というのも、「アンソロジー」とは、ご存じのように、まさに詞華集、花を集めたもの、選び分けたものという意味だからです。

幸いなことに、この後、私が文字通り引用している箇所に見られるように、関係者は生き生きとした、屈託のないスタイルで、この出来事を私たちに語ってくれています。

ことは次のように始まりました。アロンソが世俗の人であったとき、彼はグラナダの三つの修道院と関わり、帰依していました。すなわち、聖なる十字架のヨハネが院長であったロス・マルティレスの跣足カルメル会士と、町のカルトゥージオ会士と、跣足フランシスコ会士とです。

とうとう彼は、カルトゥージオ会に入ることを決断しました。入会に必要な手続きが済んだあと、いつ修道服を身につけに行くべきかについて知らせがありました。

出かける前に、彼は、諸天使のペドロ神父や知り合いの他の神父に別れを告げにロス・マルティレスへ行きました。彼は、グラナダへ着いてまもない十字架のヨハネ修士をまだ知りませんでした。

他の神父たちは、非常に聖なる生き方を選んだことに対し、アロンソにお祝いの言葉述べました。けれども、彼らは次の言葉を付け加えました。アロンソは文字通りこう語っています。「そこで（ロス・マルティレスで）修道服を、つまり跣足カルメル会士となることを、何故願わなかったのかと。というのも私は彼らをとても愛していましたし、彼らも私に好意を持っていましたから。

私は、笑いながら、もし神父様たちがそれをお望みならば、と答えました。

（続く）

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

20. 福者 三位一体のエリザベット（1880－1906）── その8

エリザベット・カテーは、1880年フランスのアヴォールに生まれた。軍人であった父は、彼女が7歳の時に亡くなった。妹のギットとは大変仲がよく、母は二人にとって大変親しい存在であった。7歳の時、エリザベットは修道女になりたいと友人に打ち明けている。早熟な子どもで、かんしゃくを起こしやすい性質であったが、初聖体を受けてからは、非常に穏やかになった。名ピアニストでもあり、また、中流階級であった彼女の家族は、パーティーや社交的な行事にもよく参加した。1891年に初聖体を受けたときから、彼女は「神に生涯を献げ、神の偉大な愛にいくらかなりともお返ししたい」と望むようになり、13歳のとき、貞潔の誓願を立て、イエスに身を捧げた。エリザベットの心はイエスにとらえられ、彼のことしか考えられなかった。21歳の誕生日に、家から近いディジョンのカルメル会に入会する母の許しを得ることができた。エリザベットは手紙の中で、カルメル会にいることの深い喜びを度々表している。あらゆるものが、彼女を三位一体へと導いた。彼女は、無条件に「三位であるお方」に身をささげ、神はそれをお受けになったのである。カルメル入会後間もなく、エリザベットは病気になり、胃疾患（現在では、アジソン病であったと考えられている）のため5年間苦しむこととなる。彼女の苦しみは、霊的にも身体的にも激しいものであったが、この苦しみによって彼女のイエスに対する愛と、彼にこの苦しみを捧げたいという望みは増していった。

彼女が書き残したものの中には、聖パウロの言葉が多く見られる。自分の召命について、彼女は「花嫁であること、カルメルの花嫁であること」とは、エリヤの燃える心と聖テレジアの刺し貫かれた心を持つこと、「神のご光栄のために熱情を傾けている」がゆえに神の「まことの花嫁」であることであると語っている。福者三位一体のエリザベットは、祈りの真の深みを生きた神秘家であり、イエスを愛しぬいた愛人であり、カルメルにおいても家庭においても、姉妹たちにとって真の友人であった。彼女は自分のことを”Laudem Gloriae(栄光の賛美)”であると言っていた。1906年11月9日に帰天。最後のことばは、「私は、光、愛、いのちへ行きます」であった。

福者 三位一体のエリザベット

—— 祈り ——

ああ、私の心は全く自由ではありません。もはや自分のしたいようにすることはできないのです。王の中の王であるお方に差し上げてしまいましたから。心の深みに、愛するお方の声が聞こえます。「もし私に従うなら、あなたは苦しみを、そして十字架を有することになろう。しかし、同時に、これらの苦しい試練のうちに、どれほどの喜び、どれほどの甘美さを、あなたに味わわせることであろう。あなたは、あなたのイエスのために十分な愛を感じているのか。私はあなたの心がほしいのだ。私はそれを愛している。私のために、私はあなたの心を選んだ。私のために、あなたの心を取っておきなさい！」 そうです、私の愛よ、私の命よ、私の拝する、愛する天配よ、そうです、私はこの犠牲の道によってあなたに従う覚悟ができているとお信じください。おお、あなたは、私が出会うはずの茨のすべてを、私にお見せになりたいのです。よきイエスさま、ご一緒にこの茨の中を通ってまいりましょう。あなたに従うなら、そしてあなたと共にいるなら、私は強くなれるでしょう。

（1899年3月31日の日記より）

おお、愛よ、愛よ！
あなたは、私がどれほどあなたをお愛ししているかを、
どれほどあなたを観想したいと望んでいるかを、ご存じです！
あなたは、私がどれほど苦しんでいるかもご存じです……。
けれども、もしあなたがお望みなら、もう30年、もう40年でも
私は覚悟ができています。
あなたの栄光のために、私の実体のすべてを焼き尽くしてください。
その一滴一滴を
あなたの教会のために
滴らせてください。

* * * * * * * * * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites（Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL http://www.ignatius.com）の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

（注）タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは烏に命じて、そこであなたを養わせる（Ⅰ列17:3-4）」ということばに由来しています。

（泰阜カルメル会訳・編）

無意識と　意識化すること　と

私たちは毎日、その人なりに暮らしています。しかし簡単に“暮らす”とか“生きている”とか言いますが、その中味は一体どうなっているのか振り返ってみたことがあるでしょうか。今ここで言うのは、自分自身がどれだけのことをした　とか、まだしていないとかいう量的なことではなくて、状態について見ていくことなのです。天気予報的に譬えて言うならば、晴とか曇りとかいうような、その状態を見てとることなのです。子供は自分の内心を客観的に見ることが出来ないので、イヤなことがあればすぐぐずついたり、いいことがあれば機嫌がよくて、言葉もいろいろ飛び出してきたりするものです。つまり自分の心中の動きが、無意識のうちに体全体に現れてしまうのです。

それが大人となればどうなのでしょうか？“体裁”という美的意識が働くために、無意識の内に表面をカムフラージュして、心中に押し込めてしまうことがよくあるのです。勿論子供のようにすべてを表面に出してしまうなら、その人は子供のようなのですが…

“生きている”というのは、毎日が晴れで、自分にとっていいことばかり飛び込んでくるのではないことは、大人なら誰でも体験してきたことと思います。
そのためにこそ、神はキリストという人間性をとられて、悪いことは何もしないのに、迫害を受けられ、無実の罪を背負わされて十字架上の犠牲となられたのでした。
私達人間にそのような偉大なことはとても出来ませんが、せめてそれを他人事のようにみるだけではなくて、自分の生活の中に時々それを意識化することは大切なことではないでしょうか。

例えば
- 今日は気が重い　ということに気づいたなら、何がこんなに心を晴れにさせないのだろう、このモヤモヤした気持ちは何なんだろう？と。そんな時、ただその感覚にまかせるだけではなく、自己診断をしてみることです。例えば〇〇さんの言い方がきつい、というのがあったら、“私はタマにあたってしまったのだ。ほんとうは当たりたくないのだ。”といった類いです。
- 何かが気になるなど、心が安定していないと感じたなら　どうしてかな　と自己診断をします。そしてあの心配ごとはこれなんだ　と改めて分かったな

ら、なるべく早くこのマイナスを自分で取り去るようにします。（例えば原稿が気になるなら、なるべく早く書いて提出するとか、一定期間まではそれを一切考えないとか、景色をぼんやりと見て心の休憩をするとか。（取り去り方は、時と場合、あるいは人によって違うので、自分に合ったものを探すことです）
大切なことは、出来るだけ早くマイナス部分を取り去るか、気を紛らして心を“晴れ”にするか　です。昔の日本の文豪が言ったように“晴”と“穢（け）”の対立概念……
これは人生につきものなのです。

キリストは“死と復活”ということを、体を通して、また人生を通して教えて下さったのでした。最終的には１回性のものでしょうが、毎日の生活に起こる小事についても、小さな“死と復活”の場面は出てくるものです。人生を生きていく時、そこには必ずしもいいことばかりが目前にあるわけではない。嫌なこと、自分にとってマイナス的なことも沢山出てきます。そんな時、ただガマンするのではなく、あえて上述の対立概念を意識すること、そして自分に今、起こったイヤなことに直面する時、その時こそキリストの十字架と復活（死と復活）を心に思い起こすのです。そうすることによって、私の小さな現実の中で、私自身が“新しい人（復活した人）”になっていくのではないでしょうか。その結果、その人は生き生きとしてくるのです。“復活”というのは死後のことだけをいうのではなく、平常でもその人の意識がこのように動くなら、その人は生き生きした、復活の人になるのではないか　と思っています。

お告げのフランシスコ姉妹会
Ｓｒ．熊田　照子

あわれみの賛歌　　石原淳子

7月の末、我家にとって大きな出来事がありました。
夫が75歳にして洗礼の恵みを拝受したのです。　深い感謝の念をもってこう記しながら、私の心は今　痛悔といっていい戦きに震えています。
どう言い表してよいか分らずにこの身に治まりきれずにあふれ出てくるものを、何とかして書き記すことによって僅かでも自らに捉えられるならと思いつついます。
家族の受洗は考えるまでもなくこれ程に願ってもないことはありません。
驚きであり、望外の幸福です。　しかし、心の内を大きく塞ぐものがあり、切ない哀しみというのでしょか、ただただひれ伏してゆるしを乞いたいという気持ちがいっぱいなのです。　「なぜ？！遂に家族全員が信者になったというのにこんなにお目出度いことないのに」　と誰もが言って祝福してくれます。そのとおりだと心から嬉しいのです。しかし、おゆるしくださいという切ない哀しみをどうすることもできません。

400年か500年前に日本国にフランシスコザビエルが渡来し、キリストを宣べ伝えました。その宣教の歴史は或る時は人間としての激しい動乱ともなりながら、今日まで途切れることなく続きこれからも続きます。　日本のキリスト教徒は、全人口の１パーセントといわれます。　数として多いのか少ないのかわかりませんが、日本という国の姿、あり方をみるなら、キリストを宣べ伝えることの困難、労苦の大きさは自ずとはかり知るところではあります。
私たち日本人にとってキリスト者となることは、ごく一部の人たちを除いては、家族周辺に於いての突然変異といえます。家族周辺一帯が仏教徒として日々熱心な信仰生活を送っているというのではないとしても、それでもそこに他の宗教に拠って立つということは、自分自身をふり返ってみても一騒動ではあるのです。

私は結婚している身でしたので、先ずは夫にまるで不貞を懺悔するようにゆるしを求め、幼い二人の息子をその存在を確かめようとして必死で抱きしめました。　里の両親へも手紙を書き送り、「一度はお嫁に出しているのだけどさらに遠くへいってしまう気がする」という母のことばに黙して頭を下げました。
夫婦とか親子とは、いわゆる「相互」という閾は越えるのだとおもっています。それでも負い目の苦しさ、底のない寂寥感が長いあいだ生活を覆いました。

人と人が愛し合うことで、互いの内に刻みつけてしまうものの痕跡は、あまりの深さゆえに、単に影響を与える受けるということとは異なり、自分達ではどうすることも出来ずに、ただ身に受けとるしかないものです。

長男は高校1年のときに、次男は結婚するときに洗礼の恵みをいただきました。　行き過ぎの拘泥は高ぶりでもあることをしっかりと覚えつつも、私にとってこれ等の恵みは、主のあわれみを仰ぎ、どうかおゆるしくださいと　身を投げ出すことでしか受けとることのできない哀切な恵みでありました。

私自身の受洗から40年をかけて長男、次男、夫、と我家としては１００パーセントとなって、日本国の１パーセントに加入しました。

昨今、頻繁に見聞きするのですが、　夢をもつ、夢をみつける、夢を追い続ける　というように盛んに夢、夢と大人にもこどもにも推奨されているようです。

この度の夫の受洗で、私は不意に気がついたことがあります。

もしかしたら私が探し続け、追い続けた私の夢とは、それも此の世に生れ落ちたその時からずっとひたすらに追い続けた夢とは、「結婚」ではなかったかと。

この度あらためて秘蹟としての結婚を黙想しながら、私の夢「結婚」が70年を費やして形を現してきたことに自分で驚きます。

「結婚」　それは男女の婚姻のみならず、世界との結婚であり、神との結婚であり、云ってみれば私ではないものとの結婚に他なりません。　無上のよろこびは常に無上のかなしみと深く共であり、私の夢である結婚は、主のあわれみの内でこそ成就するものであることを、今深く知っています。更には私の人生そのものが、主のあわれみの賛歌であることを、今深く知っています。

主よ　あわれみたまえ
キリストよ　あわれみたまえ
主よ　あわれみたまえ

いのちの言葉　8月

イエスは、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。
（ヨハネ13・1）

このみ言葉が、福音書のどの部分で語られているか、ご存じですか。ヨハネ福音書では、イエスが受難に入られる前、弟子たちの足を洗われる箇所の直前に出てきます。

弟子たちとの最後のときにあたり、イエスは彼らにいつも注いでこられた愛を、最高の形でよりはっきりと、お示しになりました。

イエスは、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。

「この上なく」という言葉は、「最後の最後まで」とも解釈され、「人生の終りまで、息を引き取る瞬間まで」という意味ですが、この言葉には「完全に」という意味もあります。すなわち、欠けるところなく全面的に、これ以上ないほどの深い、極限の愛で、イエスは弟子たちを愛された、ということです。

イエスは後に、栄光の内に天に入られますが、弟子たちはこの世に残ります。彼らは孤独を感じ、多くの苦難を乗り越えなければならないでしょう。イエスは、まさにそのような時こそ、弟子たちがご自分の愛に確信を持ってほしい、と望まれます。

イエスは、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。

このみ言葉の中に、キリストの生き方、愛し方をお感じになりませんか。イエスは愛に動かされ、弟子たちの足を洗うことまでされました。それは当時、奴隷だけがする仕事でした。そしてイエスは、十字架を背負いゴルゴタの丘へと向かわれます。それは、すばらしい言葉や数々の奇跡、あらゆる業だけでなく、ご自分の命を、弟子たちとすべての人に、お与えになるためでした。それこそまさに、弟子たちが必要としていたものでした。すべての人が最も必要としていること、それは、天の国に入るため、罪から解き放たれ、死から解放されることだからです。人は永遠の命の中で、平和と喜びを見出すのです。

だからこそイエスは、ご自分の命をお捧げになり、「なぜ私を見捨てられたのか」と御父に叫ばれ、最後に「成し遂げられた」と言われました。

イエスは、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。

このみ言葉からは、イエスの変わらぬ根強い「神」の愛と、優しく深い「兄弟」の愛情が、感じ取れます。

私たちキリスト者も、このように愛することができるでしょう。キリストが私たちの内にいてくださるからです。

でも、イエスが人々のために死なれたことに倣うように、というわけではありません。あるいは、強制収容所で兄弟の身代わりとなって亡くなったコルベ神父や、ハンセン病患者と生活し、自らその病にかかって、彼らと共に彼らのために死を迎えたダミアン神父を、第一の模範とすべきだ、というわけでもありません。

私たちは、誰かのために命を捧げる機会は一生ないかもしれませんが、神が確実に私たちに要求されることはあるでしょう。それはイエスのように「成し遂げられた」と言える

まで、私たちも最後の最後まで深く、兄弟を愛することです。

イタリアに住む11歳の女の子、チェッティも、これを実践しました。ある日、同じクラスのジョルジーナが、とても悲しそうな顔をしているのを見たチェッティは、この友達を慰めようとしましたが、相手は悲しそうなままでした。それでもチェッティはあきらめず、なんとかジョルジーナの悲しみの理由をわかろうとしたところ、最近、彼女の父親が天に召され、母親は娘を祖母に預けて、他の男の人の所に行ってしまったことがわかりました。チェッティは友達のつらさを思い、すぐ何かしようと考えました。幼いながらも、「あなたのお母さんと話をさせて」とジョルジーナに言うと、彼女は「まずお父さんのお墓に一緒に来て」と頼みました。チェッティが大きな愛をもって一緒にお墓に行くと、ジョルジーナは泣きながら「お父さん、私も連れて行って」と言うのです。チェッティの心は、張り裂けそうでした。

墓地の近くには、崩れかけた小さな教会がありました。二人がそこに入ってみると、中には小さな聖櫃と十字架だけが置かれていました。「見て。この世では何でもこわれてしまうけど、十字架とご聖櫃は残るのね」とチェッティが言うと、ジョルジーナは涙をぬぐいながら「本当にそうね」と答えました。それからチェッティは、やさしく友達の手をとると、一緒に彼女の母親のもとに向かいました。

母親を前にした時、チェッティは毅然とした態度で言いました。「おばさん、聞いてください。私には関係のないことかもしれないけれど、言わせてください。あなたは、娘がお母さんの愛を必要としているのに、置き去りにしましたね。あなたが回心して、娘を引き取らないうちは、あなたの心には決して平和がないでしょう」と。

翌日、学校に来たジョルジーナを、チェッティは愛をこめて迎えましたが、その日、思わぬことが起こりました。一台の車が、ジョルジーナを迎えにきたのです。運転席にいたのはお母さんでした。それ以来、その車はいつも迎えに来ました。ジョルジーナの母親は、相手の男性との関係を断ち切り、娘と暮らすようになったのです。

チェッティの果たした小さくて偉大な行いは、「成し遂げられた」と言えるものです。彼女は、一つひとつのことを最後までしっかりと果たし、ついにやり遂げたのです。

少し考えてみましょう。私たちも誰かの面倒を見始めたのに、いろいろなことを口実にし、良心の声に耳を貸さず、その人の世話をしなくなってしまった、ということが何度もあったのではないでしょうか。それとも、やるき満々で何かの活動を始めながらも、困難に出遭って、自分の力は及ばないと考え、やめてしまったことが何回もあったかもしれません。

そんな私たちに、イエスは今日、次の教訓を与えてくださいます。

イエスは、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。

私たちも、このように生きてみましょう。

いつの日か、神が本当に命をお求めになる時にも、私たちは躊躇しないことでしょう。殉教者も、歌いながら死に向かっていきました。死の報いは、最も大きな栄光です。イエスは「この世で友のために血を流すよりも、大きな愛はない」と言われたからです。

キアラ・ルービック

＊ フォコラーレの創立者キアラ・ルービックは、初期の頃から「いのちの言葉」に解説をつけてきました。2008年3月14日の彼女の帰天後は、キアラが過去に残した解説を取り上げます。今月のいのち言葉は、1979年4月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先
フォコラーレ：
03-3707-4018/03-5370-6424
E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp
ホームページ：
http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito

常かつておもはぬものを子等と居り此夏さぶし昔しぬばゆ

でむしの身はやせこけて肩書のからのみなるを負へる我はも

西田幾多郎　寸心

伊藤宏見 著『西田幾多郎 心象の歌』より著者の許可を得て掲載

カルメル会の企画案内

九州ヒルト会の企画案内

東　京

「イエスの聖テレジア乙女・教会博士」の荘厳記念ミサと晩の祈りのご案内

2015年に、イエスの聖テレジア（アビラ）の生誕500年祭を迎えます。
男子跣足カルメル会修道会は、第90回世界総会（2009年4月17日～5月8日）において、この記念の年を迎えるための準備を、今年の聖テレジアの祝日から始めることを決定しました。これらのことは、「聖テレジアの著作を読み、黙想し、刷新されること」の準備となるためです。
今年10月15日の聖テレジアの記念を祝いながら、この準備の年を始めていきたいと思います。
以下のように聖テレジアの記念を祝いますので、どうぞご参加くださり共にお祝いいただければ幸いです。

記

イエスの聖テレジア乙女・教会博士の荘厳記念のミサと晩の祈り

2009年10月14日　夜7時30分～　　前晩の祈りとミサ
15日　朝6時30分、10時　　ミサ

※尚、15日10時のミサは、アビラの聖テレジア生誕500周年（2015年）準備開始ミサとなります。

「幼きイエスの聖テレジア（リジュー）乙女・教会博士」の祝日記念ミサのご案内

記

幼きイエスの聖テレジア乙女（リジュー）の祝日記念ミサ

2009年10月1日　朝6時30分、10時　　ミサ

※ミサ終了後、「バラの祝福」があります。

場所：　カトリック上野毛教会聖堂

東 京

上野毛霊性センター ‘09年9月～’10年3月

黙想企画 ＊＊ 聖テレジア修道院（黙想）＊＊

1．一泊聖書深読（毎回土曜日 夕食～日曜日16時）

⑥	12月19日～20日	新井延和神父
⑦	2010/ 2月27日～28日	新井延和神父

※①、② ③、④終了。また、聖書深読日程に変更がございます。
9月5日・6日、11月28日～29日分が中止となり、上述日程での深読黙想となります。どうぞご了承下さい。

2．奉献生活者のための黙想会

C	11月 9日（月）夕食～11月18日（水）	朝	松田浩一神父
D	12月26日（土）夕食～‘2010/1月4日（月）	朝	中川博道神父

※A、B終了致しました。

3．木曜黙想会 （毎回木曜日10時～16時）
年間共通テーマ《祈りを深める》

9月10日	苦しみの中の祈り	今泉 健神父
11月26日	ミサの祈り	今泉 健神父
2010/ 1月28日	主の祈り	松田浩一神父

4．金曜黙想会 カルメルの聖人（毎回金曜日10時～16時）

10月 9日	アビラの聖テレジア	今泉健神父
12月11日	十字架の聖ヨハネ	ベルナルド神父
2010/2月12日	聖エリア	中川博道神父

5.「社会人のための心の休息」―日常のキリスト教霊性を求めて―

(毎回金曜日　20時～　土曜日　15時)　　新しい企画

松田浩一神父

④　　9月11日（金）～12日（土）
⑤　　10月23日（金）～24日（土）
⑥　　11月　6日（金）～　7日（土）
⑦　2010/ 1月29日（金）～30日（土）
⑧　　2月26日（金）～27日（土）

※①，②，③　終了

尚、この企画は社会人（働いている人）の霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

6.青年黙想会（男女）　中川博道神父・松田浩一神父・神学生

11月21日（土）～23日（月）　　16時受付

7.祭日のミサに与かるために

【クリスマス】・・チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

12月24日（木）～25日（金）《講話なし、夕食なし》

8.特別黙想会　　伊従信子NDV

10月10日（土）20時～12日（月）16時（10日は夕食を済ませてご参加ください）

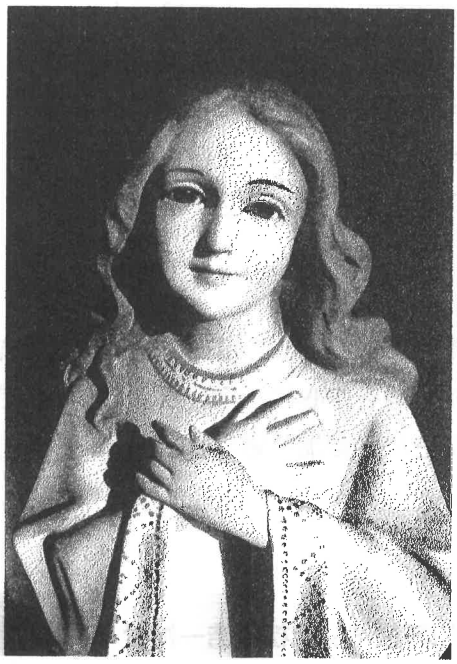
テーマ：「さらに固く信じさせてください」

10.待降節黙想会

12月4日（金）20時～6日（日）16時（4日は夕食を済ませてご参加ください）

指導：カルメル会士

※指導者は決定次第告知致します。ご了承ください。



幼いマリア像（聖テレジア修道院・黙想）

電話でのお問い合わせは午前 9 時から午後 4 時 45 分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんの
でなるべく FAX・はがき・Eメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院（黙想）
TEL　03—5706—7355
FAX　03—3704—1764
e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

✢

「カルメルの霊性に親しむ」

ーカルメルの霊性をとおして イエスとの出会いの道を探しますー

担当：中川 博道（カルメル修道会）

＊どなたでも いつからでもご参加ください＊

2009年～2010年 予定表

場所：カトリック上野毛教会（信徒会館）

朝のクラス（火曜日） ≪10:30～12:00≫	夜のクラス（金曜日） ≪19:15～20:45≫
了 7月21日	了 7月24日
9月 8日	9月11日
10月27日	10月30日
11月24日	11月27日
12月15日	12月18日
2010年 1月19日	1月22日
2月23日	2月26日
3月 9日	3月12日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

東　京

木曜 黙想会　一般黙想

2009年　3月12日　テーマ：「共に苦しむ神」　了

7月　9日　テーマ：「イエスは祈られた」　了

金曜 黙想会　カルメルの聖人

2009年　4月17日　テーマ：「御復活のラウレンシオ」　了

2010年　2月12日　テーマ：「聖エリア」

対象：どなたでも

時間：10時～16時

指導：中川博道師

費用：3,500円

場所：聖テレジア修道院（黙想）

お申込みは下記＜聖テレジア修道院（黙想）＞へ お願いいたします

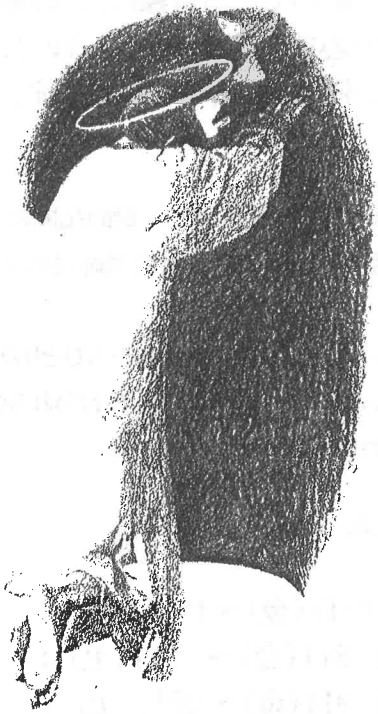
158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL：03-5706-7355

FAX：03-3704-1764

－木曜黙想会－

苦しみの中の祈り



クリスチャンにとって苦しむことは無駄なことではありません。使徒聖パウロは「キリストの限りない苦しみにあずかるわたしたちは、キリストをとおしてその豊かな慰めにもあずかるのである」(2コリ 1･5)と言っています。苦しみをとおして精錬され、キリストの背丈にまで達することができるようにご一緒に祈りを深めましょう。

日　時　：　9月10日（木）　10時～16時
場　所　：　カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）
指　導　：　今泉　健　神父（カルメル会）
会　費　：　3,500円
お申込み　：　TEL 03－5706－7355　FAX 03－3704－1764
Email　mokusou@carmel-monastery.jp

東　京

『社会人（働いている人）のための心の休息』

―日常のキリスト教霊性を求めて―

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

【内容】

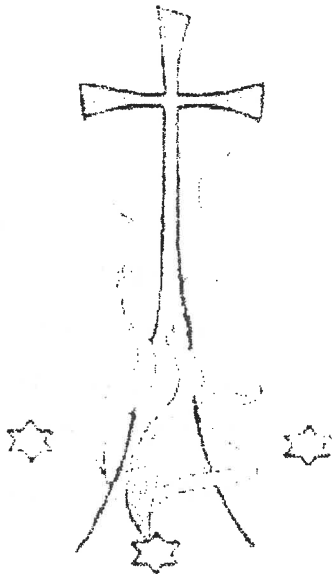
- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点（霊的理解）を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴を行います。
- メソードの一つとしてコーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】　6人

【開催日】

① 2009年　4月17日（金）～18日（土）了
② 　　5月　8日（金）～　9日（土）了
③ 　　6月19日（金）～20日（土）了
④ 　　9月11日（金）～12日（土）
⑤ 　　10月23日（金）～24日（土）
⑥ 　　11月　6日（金）～　7日（土）
⑦ 2010年　1月29日（金）～30日（土）
⑧ 　　2月26日（金）～27日（土）

（毎回金曜日　20時（夕食なし）～土曜日15時）



【参加費】　各回5,000円

【霊的同伴】松田浩一神父

【申込み方法】参加希望者は、前日の木曜日16:45迄に、下記の聖テレジア修道院（黙想）へFAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2－14－25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）
Tel　03－5706－7355、　Fax　03－3704－1764
E-Mail：mokusou@carmel-monastery.jp

東京

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。　皆様のご参加をお待ちしています。

＊＊＊＊＊

＊　日時：2009年12月19日（土）18時～20日（日）16時

＊　場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

＊　指導：新井延和師（カルメル会司祭）

＊　会費：￥7000

＊　持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著　￥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。

お問合せ・お申込は、TEL.　FAX、ハガキにてお願いします。
〒158-0093　世田谷区上野毛　2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
Tel.03－5706－7355
Fax.03－3704－1764

東　京

特別黙想会

≪わたしは神をみたい≫

2009年10月10日（金）20時～11日（日）15時

テーマ：「さらに固く信じさせてください」

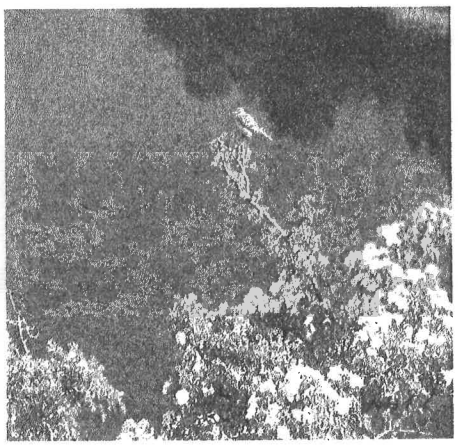
神は　わたしの声を聞かれ
祈り求めるわたしに　心を留めてくださる

神の慈しみへの

果てしない望みは

わたしの宝です

－　テレーズ　－



- **指　導：**　伊従　信子　（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- **持参品：**　新約聖書　『いのちの道』（黙想の家でも購入できます）
  筆記用具、パジャマ
- **参加費：**　￥１２０００
- **場　所：**　カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
  158－0091　東京都世田谷区上野毛２-14-25　TEL 03-5706-7355

＊申し込み方法　　ハガキまたは、FAX.03-3704-1764 でお願い致します。

‘０９年９月～‘０９年１２月まで　黙想会案内　（宇治カルメル会）

＊＊宇治聖テレジア修道院（黙想）＊＊

１．聖書深読

一泊二日（午後５時～午後４時）

９月　５日（土）～　６日（日）　新井延和神父
１１月１４日（土）～１５日（日）　渡辺幹夫神父

一日（午前１０時から午後４時）

１０月３１日（土）　九里彰神父
１２月１２日（土）　新井延和神父

２.水曜黙想（午前 10 時～午後 4 時）

９月２３日　十字架の神秘　新井延和神父
１０月１４日　完徳の道　渡辺幹夫神父
１１月　４日　聖なる冒険　Sr,パウリン
１２月　９日　暗　夜　九里彰神父

３.待降節黙想（午後５時～午後４時）

１２月5日（土）～6日（日）　九里彰神父

４.聖テレーズの黙想（午後５時～午後４時）

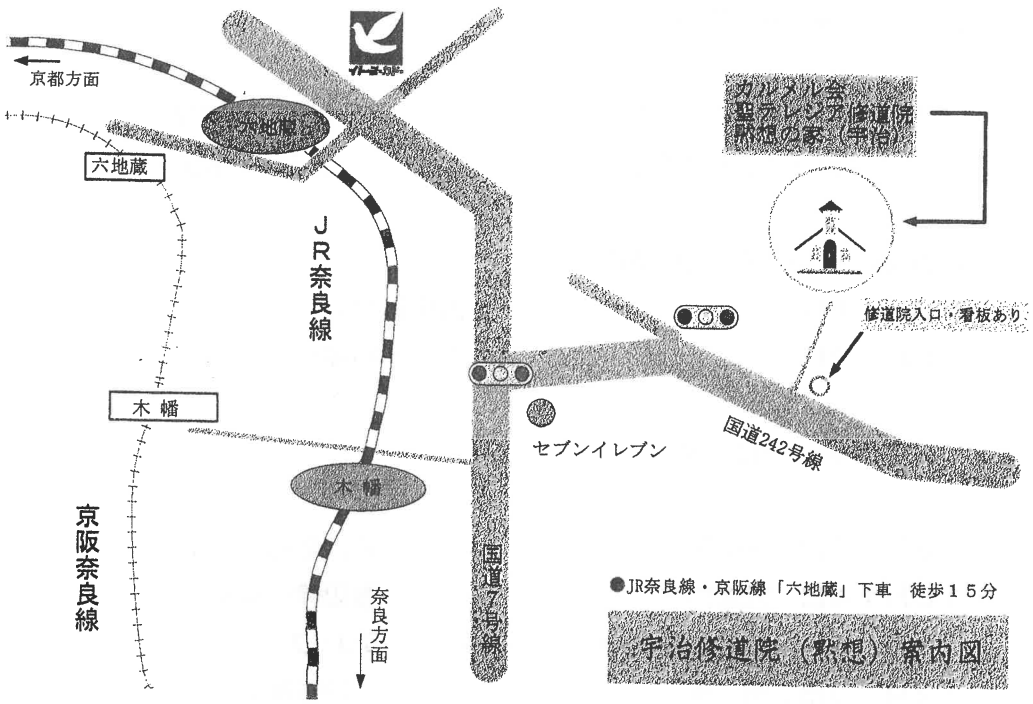
９月３０日（水）～１０月１日（木）　伊従信子師

５.奉献生活者のための黙想（午後５時～午前９時）

１０月１７日（土）～１０月２６日（月）　九里彰神父
１２月２６日（土）～1月4日（月）　新井延和神父

６.青年のための黙想会・男女　（午前１０時～午後５時）

１１月8日（日）　九里彰神父



その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

＊申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前９時～午後５時の間にお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
TEL　0774-32-7016
FAX　0774-32-7457
e-mail　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

京　都

司祭年　テレーズの黙想会

2009年9月30日（水曜日）5時――10月1日（木曜日）4時

テレーズの命日、祝日に

テレーズといっしょに祈りませんか

指導：　伊從　信子

場所：　カルメル会
聖テレジア宇治修道院（黙想）
６１１－００２２
宇治市木幡御蔵山３９－１

持参するもの：　新約聖書
『テレーズの祈り』（聖母の騎士社）黙想の家でもお求めになれます
筆記用具、パジャマ

申し込み先：ファクス　０７７４－３２－７４５７
電話　０７７４－３２－７０１６
e-mail　carmis@mboxkyoto-inet.or.jp

名古屋

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」
～都会の中の一日静修～（2009）

この会は、現代の忙しい社会の中にあって、また都会の中にあって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみてはいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『闇に輝く希望の光』としました。このテーマを通して、“生きる負担、不安、苦しみ、病、老い、死の恐れ、悩み、痛み”などなど一見“ネガティーブ”（闇）と思われる出来事の中にも、主と出会う道筋が隠され、希望の光を静かに放っているはずです。この闇と思われる現実をもう一度眺め直し、希望のうちに生きていくヒントを探し求めて、一日静修において黙想し、祈りを深める事ができたらと願っています。

第6回	6月20日（土）了	苦しみの中における喜びと平安　三位一体のエリザベット	九里彰神父　（宇治修道院）
第7回	7月11日（土）了	苦しみの中の祈り	今泉健神父　（上野毛修道院）
第8回	9月21日（月）祝	幼いイエスの聖テレーズの悲しみ	新井延和神父　（宇治修道院）
第9回	10月17日（土）	アヴィラの聖テレジアの霊性からの自由と希望	Sr.ベアトリス（宣教カルメル修院）
第10回	11月28日（土）	暗夜に輝く神のみ言葉：恵まれた方、聖マリア	松田浩一神父　（上野毛修道院）

＊　時間　AM10:00～PM4：00
＊　場所　カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分　＊聖テレジア幼稚園隣接
＊　参加費　1,000円
＊　持ってくるもの　聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
＊　定員　約30名
＊　プログラム　10：00～ 祈り・導入・黙想
10：40～ 講話【1】
12：00～ 昼食
13：00～ 赦しの秘跡または短い面接
13：30～ 講話【2】
14：45～ ミサ
15：30～ 茶話会
16：00　終了

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TEL、（所属教会）を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆　名古屋カルメル霊性センター
〒456－0062　名古屋市熱田区大宝4－5－17　カルメル会日比野修道院　FAX 052-671-1825
一日静修係　〒465－0058名古屋市名東区貴船3－2115　小林　厚・晃子　TEL052-701-3685

２００９年度名古屋聖書深読会

第１回　了　５月１６日（土）　日比野カトリック教会　新井延和神父

第２回　１０月　３日（土）　日比野カトリック教会　新井延和神父

＊ 参加費　￥１０００

＊ 持ち物　聖書・ノート・筆記具・昼食等

＊　毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

＊　原則として、定員は２１名とし、申し込みは、１週間前にFaxまたはハガキでお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

＊　対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞　申し込みは、下記の住所へハガキまたはFAXで、お願いします。

名古屋カルメル霊性センター
〒456-0062　名古屋市熱田区大宝４－５－１７
カルメル会日比野修道院
FAX０５２－６７１－１８２５
または
〒465-0058　名古屋市名東区貴船３－２１１５
小　林　　厚・晃　子
TEL/FAX０５２－７０１－３６８５

聖書深読センターのご案内

1　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

2　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち２箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

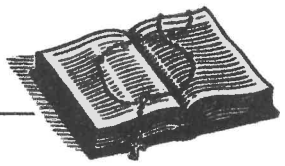
1　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。
講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。
費用：６ヶ月18,900円（４、７、10、１月に納入）　継続の場合は１６,９００円
講師：九里彰師（奇数月）　新井延和師（偶数月）
問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿２-６-１新宿住友ビル
私書箱２１号　朝日カルチャーセンター通信講座部
電話03-3344-2527（直通）

2　ミニ深読

グループで２、３時間かけて聖書深読法の一部分を行います。
聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。
遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはＳｒパウリーナが指導に行くことも可能です。
問い合わせは「聖書深読センター」事務局　Ｓｒパウリーナまでご連絡下さい。

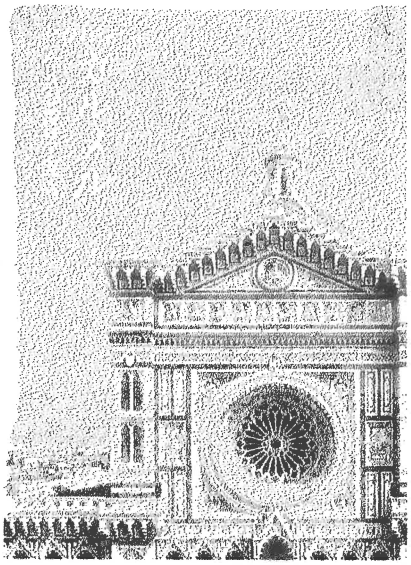
◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

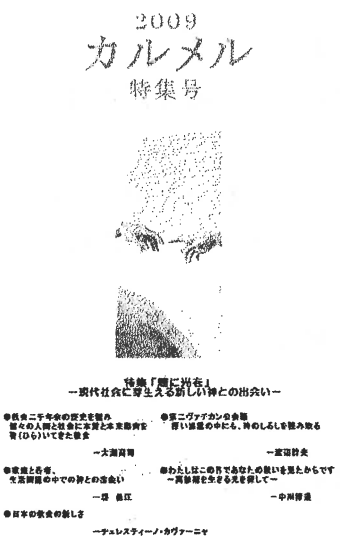


聖書深読センター
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山39-12カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
所長：奥村一郎神父　　事務局長：新井延和神父　　連絡先：Ｓｒパウリーナ
ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

「観想」を読む―





雑誌「カルメル」NO333（2009年夏号）「今日の霊性」

「馬屋」の霊性（2）　…高橋重幸
マリアの旅（4）―外へ出ていく旅、内なる神秘に向かう旅（2）　…中川博道
今日の歌（4）　…ペトロ・アロイジオ
リジューの聖テレーズ　巡礼する旅人　…ユージーン・マッカーフリー
エリザベットの「魂のこだま」、ギット（10）祈りの人　…伊従信子
「小さい道」の巡礼者（5）
テレーズの修練者―三位一体のマリー　…中山眞里
「貧しいキリストの模倣」　アシジの聖フランシスコの生涯　…九里　彰
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師（25）
聖霊に遣わされて　…伊従信子
百八十八殉教者の列福に思う　…谷口正子
愛の断章（12）　…奥村一郎

雑誌「カルメル」　2009年特集号
「闇に光を」 ―現代社会に芽生える新しい神との出会い―

教会二千年の歴史を鑑み
個々の人間と社会に本質と本来指向を啓（ひら）いてきた教会　　―大瀬高司

第二ヴァチカン公会議　　暑い黒雲の中にも、時のしるしを読み取る
―渡辺幹夫

家庭と若者、
生活問題の中での神との出会い　　―堤　邑江

わたしはこの目であなたの救いを見たからです
―高齢期を生きる光を探して　　―中川博道

日本の教会の新しさ　　―チェレスティーノ・カヴァーニャ

購読のご案内

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号＋特集号、送料込み）として、3000円を下記へお振込みください。

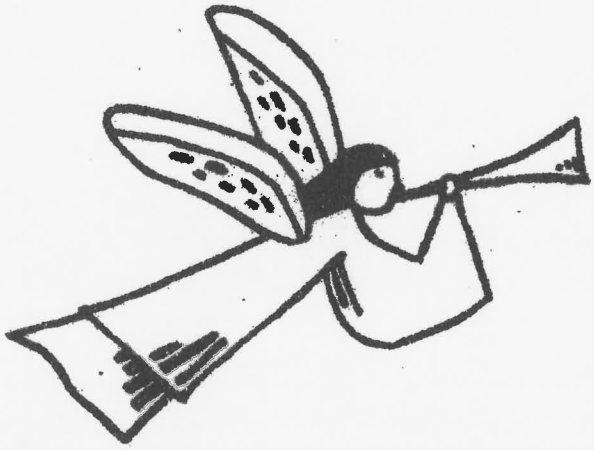
郵便振替：００１９０－４－１９５４５７　跣足カルメル修道会
（お問い合わせは、事務担当竹田まで。ＴＥＬ（０３）５７０６－８３５６）

待望の再販

『自叙伝』（サンパウロ社）、『創立史』『完徳の道』『霊魂の城』

（以上３冊、ドン・ボスコ社）

諸所の企画案内



心のいほり

真命山霊性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

講所の企画案内

心のしほり

真命山霊性交流センター

ハーモニーイエーキ神父キリスト教講座

ハートルタム・ド・ヤ

ハートルタム教育修道会

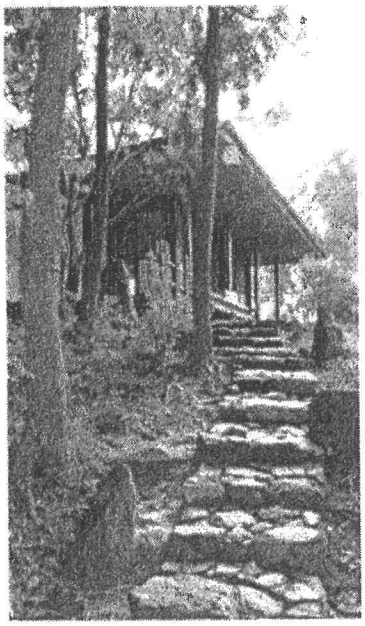
内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。
◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。
◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせて下さい。電話では取次いでおりません。
申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了お願いします。
◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町３－２７「心のいほり　内観瞑想センター」
藤原神父　FAX　072・802・5026
http://www.com-unity.co.jp/naikan
予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★2009年度★

了 **K3** 09・06・08（月）2時から　06・14（日）2時まで　東京・小金井・聖霊会
了 **N1** 09・06・24（水）2時から　06・30（火）2時まで　滋賀・唐崎・ノートルダム
了 **F2** 09・07・10（金）2時から　07・16（木）2時まで　福岡・御受難会黙想の家
了 **Y2** 09・07・22（水）2時から　07・28（火）2時まで　神戸・須磨・ヨハネ
了 **O1** 09・08・23（日）2時から　08・29（土）2時まで　長野・大鹿村・草々庵
P3 09・09・12（土）2時から　09・18（金）2時まで　兵庫・売布・女子ご受難会
Y3 09・10・07（水）2時から　10・13（火）2時まで　神戸・須磨・ヨハネ
K4 09・10・21（水）2時から　10・27（火）2時まで　東京・小金井・聖霊会
N2 09・11・02（月）2時から　11・08（日）2時まで　滋賀・唐崎・ノートルダム
F3 09・11・16（月）2時から　11・22（日）2時まで　福岡・御受難会黙想の家
P4 09・11・28（土）2時から　12・04（金）2時まで　兵庫・売布・女子ご受難会
K5 09・12・09（水）2時から　12・15（火）2時まで　東京・小金井・聖霊会

2009年度祈りの集いのご案内
聖パウロの年



通年のテーマ：

聖パウロについて　レクツィオ　ディヴィーナ

祈りの集い（毎回午前10時～午後2時半）

9月10日　聖パウロの書簡　1

10月　8日　聖パウロの書簡　2

11月19日　聖パウロの逮捕（使徒言行録21：27…）

12月10日　聖パウロの殉教

指導者：フランコ・ソットコルノラ神父（真命山院長）

園田　善昭神父

ダニエレ　サルツィ・サルトリ神父

マリア　デ・ジョウルジ　シスター

申し込み先
〒 865-0133
熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7
真命山諸宗教対話・霊性交流センター
☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186
e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。（要予約）

リーゼンフーバー講座・集い案内　　２００９～２０１０年

●キリスト教入門講座

金曜日　18 時 45 分～20 時 30 分　聖イグナチオ教会信徒会館 3 階アルペホール　どなたでも。
聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第１・第 3・第 5 火曜日　18 時 45 分～20 時 30 分　聖イグナチオ教会信徒会館 3 階アルペホール。
キリスト教の基礎知識を持っている方。2 年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、
キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー　下記の土曜日　9 時 30 分～11 時、また 11 時 15 分～12 時 45 分、
岐部ホール４階４０４、２つの講座・セミナーでキリスト教関係の思想・哲学
神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、
プログラム等に関してＨＰ（文末）を見よ。
９月５日、１９日　（後期）　１０月３日、１０日、１７日、２４日

●坐禅会　　月曜日　17 時 20 分～20 時 10 分　　木曜日　18 時～20 時 30 分
上智大学内クルトゥルハイム 1 階左の部屋。祝日を除く。３回座り、間に講話が
あります。どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

●接　心　（秋川神冥窟）　　１０月２９日（木）20 時 30 分～１１月３日（火）１３時
一泊２４００円程度
（上石神井）　　2010 年２月６日（土）8 時 30 分～７日（日）15 時 30 分
５，９００円程度

●ミ　サ　水曜日　17 時 10 分～18 時　上智大学内クルトゥルハイム 1 階右小聖堂
どなたでも。（但し、休日休）

●祈りの集い　下記の土曜日　13 時 30 分～16 時　上智大学内 SJ ハウス第 5 会議室
黙想、講話、ミサがあります。9 月 5 日、10 月 10 日、11 月 7 日、12 月 5 日
ロザリオの祈り　同日 16 時 10 分～50 分　クルトゥルハイム 1 階右小聖堂

●黙　想　　【会社帰りの黙想】　毎月第 2・第 4 火曜日　　18 時 45 分～20 時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。
１２月２５日（金）はクリスマスの黙想（予定）。

【お昼の黙想】毎月第１・３火曜日　10 時 40 分～11 時 55 分
聖イグナチオ教会マリア聖堂　但し、８月全休、祝日休。
【水曜日】　18 時～18 時 30 分　上智大学内クルトゥルハイム１階右小聖堂
どなたでも。但し８月全休、祝日休。
【通う霊操】8 月 22 日（土）～8 月 30 日（日）18 時～20 時 45 分
上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●黙想会　　9 月 12 日（土）10 時～13 日（日）15 時、
11 月 21 日（土）10 時～23 日（月）15 時（東村山）

●アガペ会　下記の日、説明会（13 時 30 分）と集い、ミサ（14 時～18 時）
上智大学内ＳＪハウス第５会議室、
１０月１７日（土）、2010 年１月２３日（土）

●クリスマス会　　１２月１９日（土）１６時３０分　聖イグナチオ教会マリア聖堂、
１８時、岐部ホール（予定）、要申し込み。

クリスマスのミサ　１２月２３日（水）１４時～　　上智大学内クルトゥルハイム聖堂

※詳細等は、下記、リーゼンフーバー神父様のホームページでご確認ください。

問い合わせ・連絡先　　クラウス・リーゼンフーバー神父（上智大学文学部哲学科教授）
102－8571　千代田区紀尾井町 7－1　上智大学Ｓ．Ｊハウス
電話　03－3238－5124{直通}、5111{伝言}、fax 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_risenhube/index.html/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座 2009年～2010年

日　時　　毎週金曜日　18時45分～20時30分

●8／28　　聖書のイエス像―ヨハネの見たイエス
（8月28日のみ、上智大学クルトゥルハイム2階）
●9／　4　　イエスの復活―今に生きるイエス
●9／11　　聖霊―神の愛に導かれる
●9／12－13　　黙想会
●9／18　　祈りの本質とさまざまな祈り方
（※9月4日～18日　　イグナチオ教会アルペホール）

リーゼンフーバー神父キリスト教理解講座 2009年～2010年

日　時　　第1・3・5火曜日　18時45分～20時30分

●9／　1　　「根本的態度」　　人生を生きる基盤―信仰と希望
●9／12―13　　黙想会
●9／15　　唯一の掟―愛による完成
●9／29　　基本的な徳―判断力・勇気・節制
●10／6　　共同存在―共通善・正義・奉仕

《場所・お問い合わせ》

場　所　　聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階
アルペホール

電　話　　03－3263－4584

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

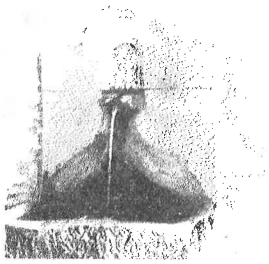
カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。
カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2009年10月17日(土)

＊ 次回の予定　２００９年１１月２１日（土）＊

講話　　伊従信子

午後２時　～　午後５時３０分位まで
講話・祈り・分かち合い
参加費　　２００円



お申し込み・問い合わせ
ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.com

カルメル会の霊性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ（いのちの聖母会）は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉献を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院

◎ 所 在 地：　〒520-0106　滋賀県 大津市 唐崎　1丁目　3－1
Tel：　077-579-7580
Fax：　077-579-3804
E-メール：　karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交　通：　JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分

◎ 日　程：

A.　8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
④　9月　1日(火)　～　9月9日(水)
⑤10月17日（土）～　10月25日（日）
⑥12月27日（日）～　2010年1月4日（月）
※①～③終了

B.　祈りの体験：週末3日間(金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
⑮10月　2日（金）～　10月　4日（日）
⑯10月23日（金）～　10月25日（日）
⑰11月　6日（金）～　11月　8日（日）
⑱12月　4日（金）～　12月　6日（日）
⑲12月11日（金）～　12月13日（日）
この期間、黙想会が行われている場合があります。
※⑦～⑭終了

C.研修と祈り：【自己の成長と祈りへの道】
(21)9月29日(火)～10月4日(日)
この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

◎ 対　象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者：　トニー・ブロドニャック（メリノール宣教師）　安井 昌子（ノートルダム教育修道女）
菊池 陽子（ノートルダム教育修道女）　松本 佳子（ノートルダム教育修道女）

◎ 申込み：　1) 名前　2) 住所　3) 電話番号　4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」安井昌子　へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。　先着順15名です。

◎ その他：　受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。
問い合わせは、電 話　または、E-メールを　ご利用ください。

奥村一郎選集（全９巻）
刊行完結

奥村一郎選集

カルメル修道会司祭である著者の半世紀にわたる著作、講演録をテーマ別に集成。深い信仰と豊かな霊性、そして透徹した知性が織り成す奥村神学の全貌を明らかにする。

慈悲と隣人愛 ●第１巻
解説・西村惠信
051-0／2,100円
日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。

＊**多文化に生きる宗教** ●第２巻
解説・橋本裕明
059-6／2,100円
宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。

日本の神学を求めて ●第３巻
解説・小野寺 功
053-4／2,100円
日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。

日本語とキリスト教 ●第４巻
解説・阿部仲麻呂
055-8／2,100円
関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。

現代人と宗教 ●第５巻
解説・鶴岡賀雄
056-5／2,100円
宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っていけるのか。

永遠のいのち ●第６巻
解説・八木誠一
054-1／2,100円
生と死、罪と恵み、正義と愛――人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。

カルメルの霊性 ●第７巻
解説・高園泰子
052-7／2,100円
カルメルの代表的な聖人、テレジア、ヨハネ、テレーズを通して、その霊性の根源に迫る。

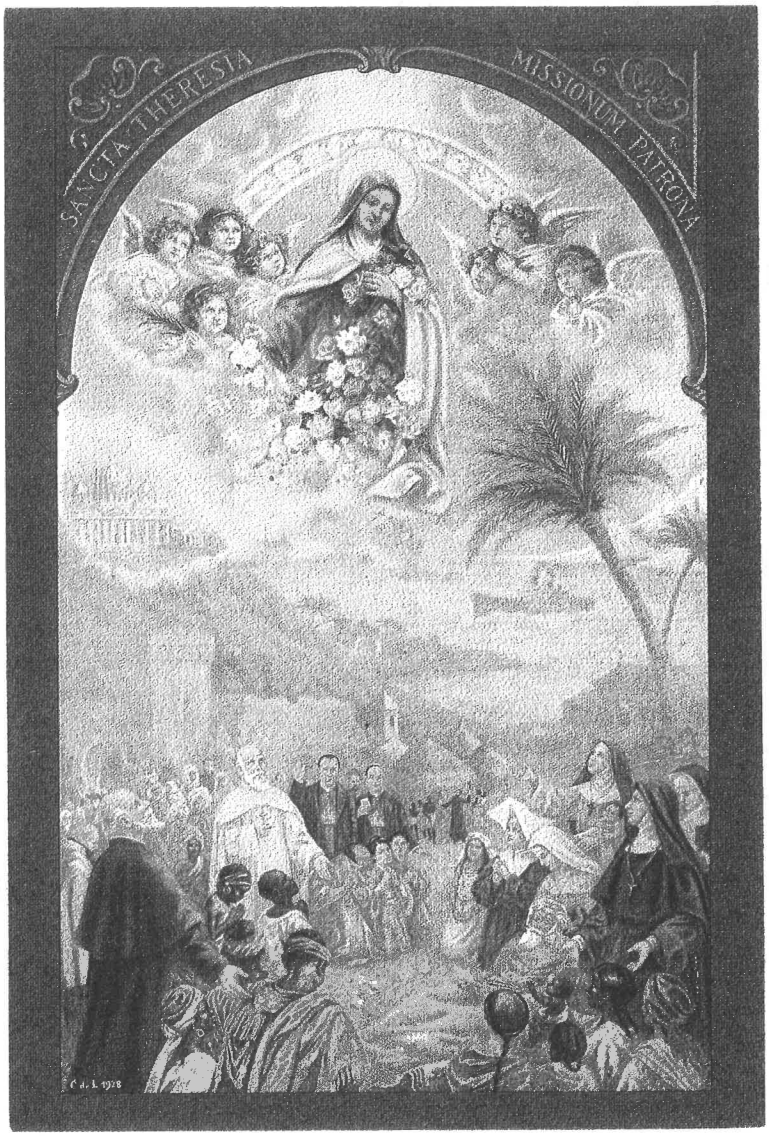
＊**神に向かう〈祈り〉** ●第８巻
解説・髙橋重幸
057-2／2,100円
東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。

＊**奉献の道** ●第９巻
解説・宮本久雄
058-9／2,100円
すべての人にみずからを与えつくす奉献生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。

四六版・上製・平均２４０頁　　各巻定価　２，１００円
（オリエンス宗教研究所）

リジューの聖テレーズ布教事業の保護者宣言80周年

記念御絵



＊ ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

A. 6cm×10.5cm　　(¥30)

B. ハガキ　　(¥100)

C. 25.5cm×30.5cm　　(¥300)

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAXにてサイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03－3704－1764

投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをＢ５で２枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われます。

》投稿規程《

＊ 締切り：原則的に毎月１０まで

＊ 原稿サイズ：Ｂ５　左右の余白２０ｍｍ

＊ 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。

＊ E-mail での投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp 宛にお願いいたします。

＊ 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。

＊ 「諸所の企画」のコーナーについては、

① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。

② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。

③ 月間、あるいは年間の具体的計画。

④ 連絡先等。

＊ 寄稿連絡は、九里（くのり）　彰神父宛にお願いいたします。**¡住所が変わります！**

〒611－0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12　カルメル会修道院

Tel(0774)32－7456　Fax(0774)32－7457

『カルメル霊性センター』のホームページ

YAHOO で「カルメル霊性センター」を検索してください！

ホームページのアドレスは以下の通りです。

http://www4.ocn.ne.jp./~carmel

『霊性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×２２０円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院　「霊性センター事務局」

「上野毛霊性センターへの献金」のお願い

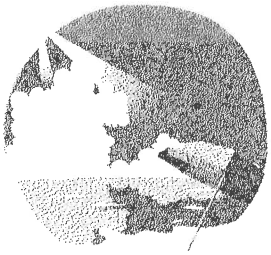
「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

＊ 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００１１０－４－２９７２５０

加入者名：　　カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



編集後記

今年の夏は、梅雨明けが長引き、夏らしい日々が少なかったように思われる。子供のときは、よく三浦半島のあちこちの海岸（埋め立てられ砂浜がなくなた所も多い）へ友達と泳ぎに行った。海の家を利用することもあったが、ないところではシャワーも浴びず、身体を乾かした後、そのまま服を着て、家でお風呂に入った。帰りがけのかき氷のおいしかったこと…

岩場では、海の水はまだ透き通っており、色とりどりの小さな魚が泳いでいた。その魚たちも、高度経済成長と共に海が汚染されていったせいであろうか、あっという間にいなくなり、代わりにゴミがぷかぷかと浮くようになった。

積乱雲と青い海、砂浜と松林、現在のように物質的には豊かではなかったのに、実にのどかな満たされた時があった。　（Ｐ．九里）

あなたにもできる

「霊性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「１０月号」製本日　　９月２９日（火）　　上野毛教会信徒会館ホール１階
９月は第５週となります　　午後１時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL　03・3704・2171